

9. 小 謡 額

喜多流下掛りとは能楽からきたもので、江戸時代に喜多七太夫長能という人によって始められた仕手方（能狂言の主人公の役）の謡の流儀のことである。中でも祝儀の謡は小謡といわれ明治になって師匠の出現で庶民に受け継がれてきた。お正月に謡をあげ身体堅固・五穀豊饒を願い奉納した。

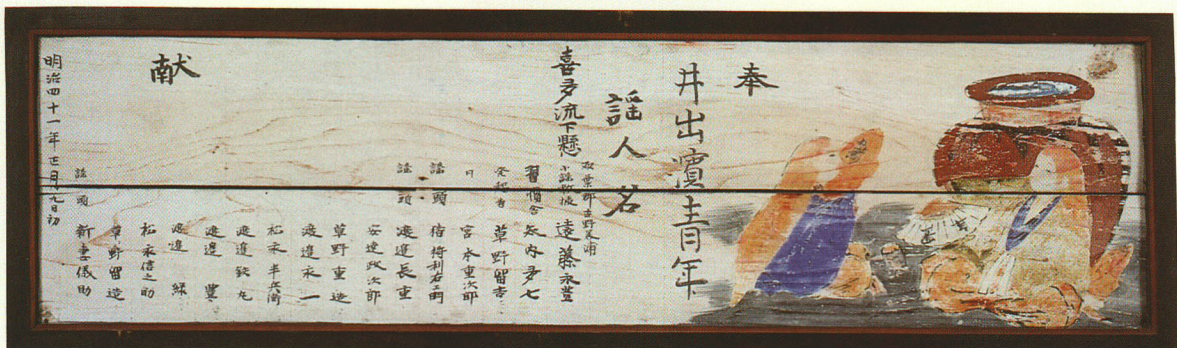


42×91

32. 小謡習慣人名額（鼠と小判図） 明治□□年

上小埜 木戸八幡神社（目録8）

農家の正月休みはながいので、その期間を利用して教授の家で謡を習った。習得した喜びと一年の身体堅固・五穀豊饒を祈願した。



49×168

33. 小謡習慣人名額（大かめ図） 明治41年（1908）

井出 竜田神社（目録2）

教授と井出浜青年ら門人の奉納で、酒が入っていると思われる大きなかめの前で「豊年」の文字入りの盃と扇子で舞っているように見える絵柄から、五穀豊饒祈願と思われる。素朴な描き方は素人絵にも見える。